

2010年ウェットランドグローブ賞の投票結果



2010年10月26日、名古屋で開催されたCBD

COP10での授賞イベントは成功裏に閉幕しました。ここに受賞湿地を報告いたします。ルワンダでの湿地再生、コスタリカでの湿地破壊に抗議する住民運動から、タンザニアのナトロン湖における賞賛に値する保護活動いたるまで、6大陸から16の様々な湿地の事例が受賞しました。全ての受賞湿地を下記に紹介いたします。また、下記のリンクから報告書(4Mb)をご覧ください。

http://www.worldwetnet.org/static/filebrowser/WLI_GLOBES_report_2011_Low_res.pdf

投票の対象となった全ての湿地を示した地図は、下記のリンクからご覧ください。

http://www.worldwetnet.org/static/filebrowser/wwn_globe_votes_2010_map.jpg

ブルーグローブ賞:

ナトロン湖(タンザニア)、中津干潟(日本)、ドナウデルタ(ルーマニア)、コチャ湖(コロンビア)、カーガス湿原(カナダ)、パンブラ湖(オーストラリア)



グリーングローブ賞:

ルゲジ湿地、プレロ湿地、ルホンド湿地(ルワンダ)、イゾンツォ川河口(イタリア)、クーベ湖(エクアドル)、オレンタンジー川湿地公園(米国)、フォレストデイル湿地、トムソン湿地(オーストラリア)

グレーグローブ賞:

ムルーヤー川河口(モロッコ)、ヨルダン川下流域(ヨルダン、イスラエル、パレスチナ)、マル・メノール(スペイン)、プラヤ・カレータス(コスタリカ)、ルイジアナ沿岸湿地(米国)、メリ湿地(オーストラリア)

2010年グリーングローブ賞—事例研究



グリーングローブ賞は、劣化したまたは改変された湿地を再生させるための取り組みに焦点を当てるものです。WWNは、これまで数多くの湿地が干拓、汚染、資源の過剰採取、人為的改変などの影響を受けてきたことに着目しています。この賞は、そのような行為を改め、湿地の状態を改善することが可能であることを示すものです。

欧州—イゾンツォ川河口、イタリア

数十年にわたる取り組みによって工業による影響を克服し、沿岸湿地を保護して人々と野生生物のために管理している事例です。

アフリカ—ルゲジ湿地、ブレロ湿地、ルホンド湿地、ルワンダ

かつて水力発電所に水を供給する目的で湿地を横切る水路が設置されており、水位が大幅に低下していました。現在、水路は埋め戻され、湿地は元の水位を取り戻しています。



北米—オレンタンジー川湿地公園—、米国 オハイオ

オ州立大学との連携によって氾濫原を復元してつくられた湿地です。ここは現在、地域の人々に利用されるとともに、科学的研究の場にもなっています。

新熱帯区—クーベ湖、エクアドル

沿岸山地の湿地系。地域の人々が自生種の樹木を使って精力的に植林を行い、森林を再生させました。ここはエコツーリズムにも活用されており、地域の人々の持続可能な暮らしを支えています。

2010 年ブルーグローブ賞—事例研究



WWN のブルーグローブ賞は、湿地管理の面で最も優れた実践例に焦点を当てるもので、地域の人々が参加して生息地や生物種を管理しているものや、湿地やその周辺に根ざした持続可能な暮らしを示している事例がその対象となります。全世界から 6 つの湿地が表彰され、そのどれもが役に立つ教訓を示してくれています。

欧州—ドナウデルタ生物圏保護区、ルーマニア

面積約 50 万 ha のルーマニアの湿地。持続可能なツーリズムを可能にするとともに、湿地に生息する多種多様な野生生物が保護されています。

アジア—中津干潟、日本

NPO 法人水辺に遊ぶ会が、地元の観光協会、漁業者や地域の人々との協力によって干潟を支えています。

アフリカ—ナトロン湖、タンザニア

このユニークなタンザニアのアルカリ湖はコフラミンゴの繁殖地となっています。最近、ナトリウム製造工場の立地計画が撤回され、貴重な生息地がそのまま維持されることとなりました。



写真提供: James Warwick

北米—カーガス湿原、カナダ

地域の保全団体が資源採掘権を買い取ったため、この小さな湿原は永久に保護されることになりました。これにより将来にわたっていかなる採掘活動も阻止することができます。湿地の長期計画策定における重要な教訓です。

新熱帯区—コチャ湖、コロンビア

地域の人々にとって極めて重要な文化的価値を持つ湿地。地域の団体がこの湖の管理・保護活動への住民参加を推進しています。

大洋州—パンブラ湖、オーストラリア

この湿地は地域の団体に委譲されたため、現在、地域の人々によって所有・管理されています。湿地保護のための地域の行動を示す素晴らしい事例です。

2010 年グレーグローブ賞—事例研究



WWN はグレーグローブ賞を授与することによって、人為的に劣化されたり、顧みられなかったり、あるいは重大な損害につながるような脅威に現在さらされている湿地に焦点を当てます。湿地の管理者では防ぎようのない要因が湿地に影響を与えている場合もあるため、この賞は湿地の管理団体ではなく、湿地そのものに贈られます。グレーグローブ賞は、具体的な脅威に対する認識を高め、利害関係者と行政が湿地をより良く管理し再生させていくための解決策を探そう促すのを意図しています。私たちは、この賞を受賞した湿地が、将来、湿地の再生事例に贈られるグリーングローブ賞を受賞できるようになることを願っています。

欧州—マル・メノール、スペイン

この沿岸の潟湖は、干拓、ホテル建設や観光客による攪乱など、観光開発の大きな圧力を受けています。

アジア—ヨルダン川下流域、ヨルダン、イスラエル、パレスチナ

この国境をまたぐ河川は、地域の観光業や生活用水の過剰取水によって多大な圧力を受けています。悲しいことに、排水がポンプで川に放流される夏の時期にだけ川が流れています。

アフリカ—ムルーヤー川河口、モロッコ

野生生物の生息地となっている沿岸河口域の湿地。既に観光利用されており、さらなる開発の脅威にさらされています。

北米—ルイジアナ沿岸湿地、米国

大規模な沿岸湿地の複合体。長年劣化が進んでいましたが、近年、メキシコ湾での原油流出事故によっても影響を受けました。



新熱帯区—プラヤ・カレータス、コスタリカ

ウミガメその他の野生生物にとって重要な湿地であるにも関わらず十分な保護措置がとられておらず、農地確保のための干拓や耕作の影響によって劣化しています。

大洋州—メリ湿地、オーストラリア

この沿岸湿地の複合体は既に工業からの脅威にさらされており、現在はさらなる重工業の進出計画に直面しています。